

4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等

4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等			
重症度	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	27	9.3	51.07
中等症	70	13.53	75.99
重症	9	23.22	80.11
超重症	10	16.4	83.1
不明	0	0	0

市中肺炎、即ちご自身で外来受診される患者さんから、ご自宅から救急車による緊急受診される方まで、幅広い重症度の患者さんの診療にあたっております。その原因微生物も多彩ですが、喀痰が得られる場合には原則として顕微鏡による検査と培養を行い、また抗菌薬による治療が開始される場合には、血液培養検査も施行することにより、出来るだけ原因菌の確定に努め、複数の呼吸器専門医による治療の妥当性の評価が行われます。上記の表はその内訳を示しております。

軽症の場合は外来治療が基本ですが、患者さんの状態によっては入院しての加療となります。救急室受診、および救急車による受診患者が多いため、中等症以上の患者さんが多く見られます。また、重症度があがるにつれて平均年齢も高くなる傾向があり、さらには治療終了後の受け入れ先の調整にも時間を要することが多くなります。従って在院日数も延びる傾向がみられます。治療は、急性呼吸不全への呼吸循環管理、および点滴薬剤投与が中心です。病態に応じ最新の医療機器（人工呼吸器、NPPV、ネーザル・ハイフロー等）を積極的に活用しての呼吸管理を行い、入院期間短縮を目指しております。